

平成 27 年 1 月 6 日更新版

国際アート・カルチャー都市 プロデューサー 提案項目

アート・カルチャーの幅広いジャンルにわたって第一線で活躍されており、性別も年齢も幅広く、企業経営の視点もお持ちで、なおかつ、豊島区を世界に向けて発信していくことについて、提言していただける方たちを「国際アート・カルチャー都市プロデューサー」として下記 11 名（50 音順、敬称略）を選任。

- | | | |
|----|--------|---------------------------------------|
| 1 | 相澤 崇裕 | 吉本興業株式会社 経営企画室室長 |
| 2 | 猪子 寿之 | ウルトラテクノロジスト集団チームラボ代表 |
| 3 | 鈴木 美潮 | 読売新聞東京本社 メディア局編集委員 |
| 4 | 高井 喜和 | 株式会社京田クリエーション 代表取締役会長 |
| 5 | 高橋 豊 | 株式会社アニメイトホールディングス 社長 |
| 6 | 橘 正裕 | 株式会社ナムコ 取締役会長 |
| 7 | 中村 園 | 株式会社アレグロ 代表取締役 |
| 8 | 前田 三郎 | 株式会社キョードーファクトリー 代表取締役会長
チーフプロデューサー |
| 9 | 宮田 慶子 | 新国立劇場 演劇芸術監督 |
| 10 | 湯川 れい子 | オフィス・レインボウ代表 |
| 11 | 横澤 大輔 | 株式会社ドワンゴ 取締役 CCO |

*プロデューサーのみなさんからは、様々な提案をいただいています。
ここでは、その中から、いくつか項目を抜粋してご紹介します。
ご意見を伺った順に掲載しています。

2 猪子寿之プロデューサー

【公園・道路をアートに、光、デジタル遊園地】

- ・区内の公園や道路をひとつのアートにして、夜も居心地のよい空間にする。
- ・夜は公園がひとつのアートになって、これを見た外国人が「公園まるごと 1 個がアートなんだ！」と発信してくれれば、世界中ですごく話題になる。
- ・デジタルのアトラクション、例えばお絵かきタウンは、建物を書いたり人を書いたりすると街ができ、子どもたちがみんなで未来の豊島区を書いてもいい。ビルをさわったり、車が通ると音が鳴ったり、みんなが描いた街が楽器になったりするので、みんなで遊べる。デジタルのアトラクションは床面積をとらないので、たくさんの人が入ることができる。
- ・ウイロードをみんながここにいたいと思うようなトンネルにすることもできる。ソメイヨシノ発祥の地としてソメイヨシノの映像を映し出し、人が近くを通ると動いたり、さわると散ったり、デジタルはデジタルで本物とは全く違う価値にした方がよい。

3 鈴木美潮プロデューサー

【食事・アニソン・ローカルヒーロー・ライブスペース・メディア戦略】

- ・池袋駅周辺で観劇後、食事するところがないため、飲食店の営業時間を延長することができればいい。
- ・アニソンのメッカになればいい。アニソンは3世代で楽しむことができる。歌はクールジャパンのショーケースの中で欠落している部分である。
- ・ローカルヒーローは、経費をかけずに盛り上がることができる。一方、ローカルではない戦隊物は経費が掛かり、権利関係も難しい。
- ・アニメの殿堂とまでいなくても、小さなライブスペースができればいい。日替わりトークショーやCDの販促イベントなどができると使い勝手がいい。
- ・メディア戦略としては、ワンセンテンスの目立つ見出しが必要。「日本で初」「日本でこだけ」というフレーズがいい。

4 高井喜和プロデューサー

【子育てファミリー・絵本・スイーツ・清掃工場煙突アート・アニメ】

- ・子育てファミリーを対象に着ぐるみショーなどの参加型のイベント「**未来の豊島区を『創造ショウ!』**」や大きな仕掛けの絵本ランドを作り、遊びに来た家族が絵本の中に入れればいい「**巨大仕掛け絵本ランド**」はどうか。
- ・清掃工場の煙突にLEDの照明で装飾のアイデアを募集する「**豊島清掃工場『煙突』LED装飾アイデアコンテスト**」を実施する。
- ・女性を呼ぶためにスイーツとキャラクターをコラボしたイベントや、子どもを対象とした豊島区のオリジナルアニメを作成するのもいい。

- ・アニメ聖地巡礼展も人が集まる。
- ・子どもを巻き込むイベント、他区からも来るような参加型のイベントを実施し、ワークショップで作った作品を「子どもアートオリンピック」のように新庁舎に飾る。
- ・子どもに「お母さん、あそこのまちに住んでみたい」と言わせる仕組みが新鮮。今は大人向けのアニメが多く、子供向けに安心して見せることができるアニメを作ればいい。

7 中村 園プロデューサー

【個人ミュージアム・アートコンテスト・庭園・光】

- ・個人ミュージアムを作ってみてはどうか。個人宅にはびっくりするようなものがある。30～40代の女性には、アニメやコスプレではなく、着物などがいいのでは。
- ・現代アートは反旗を翻しているイメージがあるが、街をモダンにし、ユーモアがある。既製品を寄せ集めるより豊島区で作ったものを展示して欲しい。
- ・現代アートのコンテストを実施し、賞金を出し、人が集まるところに飾ると、アーティストは喜んで自腹を切って作る。
- ・公園を庭園風に変える。水の音は人の心を和ませ、各公園にイングリッシュガーデン風、インド風などの特色を持たせ、世界遺産を巡るようにするのも面白い。

11 横澤大輔プロデューサー

【観光資源のデジタル化、若者文化、消滅可能性都市のハブに】

- ・観光資源をうまくデジタル化して、現場とネット上で、人が二度集まるような場所を作り、それを若者文化とつなげていく。
- ・池袋は多くの人がゆっくり回遊していて、ターミナルとして非常によい状態であり、立ち寄りスポットをもっと増やせる可能性がある。
- ・京都はまち自体が集客装置。景観条例もあるが、「きちんと集客できますよ」という仕組みを行政が作ることができれば、池袋はおもしろいまちになる。
- ・池袋のチェーン店は「何かが違う」と、見せることが重要。それが「まちぐるみで何かをやっている」というサインになる。
- ・今、注目されているポイントは結構限られていて、「当たり前のものが変わる」、「大人が本気で遊ぶ」というのが、若者たちにささるキーワード。
- ・池袋は、いい意味で色が付いていない。キャッチコピーがないことが逆にプラスになる。「消滅可能性都市」と言うブランドを使うべき。
- ・相互優位というか、消滅可能性都市の物産を豊島区に持ってきて、消滅可能性都市の応援イベントをやりたい。
- ・昔のようにバンド系の聖地がなくなって散漫になっているので、池袋はバンド系とかアニメの声優とか、何かを追いかけている女の子たちが集まる場所にし、ニコニコ本社も含めてうまく回遊していただこうと思う。

- ・まず国内で勝てるよいものを作ってから海外に発信しないと海外でも勝てない。海外戦略を考える人は、海外に向けて作っているように感じる。国際的なものを作るより、キーになるものを集めるだけで十分。

6 橘 正裕プロデューサー、10 湯川 れい子プロデューサー（同時実施）

【グリーン大通りへの出店、音楽・アニメの活用】

- ・色んなお店を出すとしても、必ず定期的にしなくてはならない。1週間に1日だけでもスタートして、最低でも2年3年はやらないと定着しない。
- ・女性が集まる工夫をしなければならない。女性に人気があるのはスイーツなので、世界のスイーツを出店してもらい、人気投票をしたらどうか。
- ・アクセサリとかハンドバックなど、決して高いものではなくて、安くて可愛いらしいものが置いてある店を出すのはどうか。
- ・できるだけオリジナリティの高い個人でやっておられる方がお店や売り場を作りやすいような環境を整えることが大事である。
- ・池袋には観劇後、きちんとした食事ができる所が少ない。2020年に向けて劇場を整備するなら周辺飲食店の開発整備も一緒にしないといけないのではないか。
- ・音楽ができるスペースが屋外にあるといい。ある程度のルールを守れば、自由に演奏できるようにしないと、新しいミュージシャンは生まれてこない。
- ・アニソンのメッカが今のところないので、現存するステージを暫定活用して土日にアニソンをやるのも一つ特色となると思う。クールジャパンのショーケースの中で、アニソンは欠落している部分だ。外国人がアニソンを聴きにきたものの、日本のどこででもやっていない状態はまずいのではないかと。池袋に行けばどこかでやっているというのが定着すれば人が来るようになる。
- ・コスプレのお客さんを集められる売り場があればいい。池袋のここの通りに行けば、コスプレ何でも全部探せるよ、というものがあれば良い。コスプレの大きなフェスは日本にない。それを池袋でやれたらいいなと思う。
- ・まだデビューしていないアニメの声優志望の学生を従業員にして、そういう場所でマイクを使って自分のオリジナルのしゃべりをしてもらって声優の練習を兼ねている。そんな店があっても良い。

1 相澤 崇裕プロデューサー

【ベンチャー企業の大量創出、豊島区創業をステータスに】

- ・一過性のものにしてはいけない。良く出来た仕組み、システム作りの何らかのきっかけを作りたい。
- ・アート、カルチャーのビジネス、最近ではスタートアップと言われている会社が池袋を

中心に集まってきて事業を作って、それが雇用、新しいエンターテインメントを生み出し、それが海外に行き、それを見に海外の人が来るみたいな生態系を作っていくのを目指していく。ロンドンの **Tech City** のアート、カルチャー版みたいなことを豊島区で池袋の近くで出来ないか。拠点になる場所で区のほうでお持ちの色々な建物の再活用というのでも十分に出来るのかなとも考えている。

- ・カルチャー系、アート系のスタートアップ企業の抱える課題は基本的には「資金、環境、ノウハウ」の 3 つです。例えば豊島区による支援としてはワークスペースの提供、資金的援助、実証実験などへの協力、メディア露出機会の獲得、あとエンターテインメント企業向けファンドを組成するというのが現実にはできたら面白いのかなと思う。
- ・豊島区創業をステータスにすればよい。世界的な会社 10 社 20 社が創業した町は、踏み台じゃなくステータスだと思う。一步目を豊島区で踏み出す会社が増えてくると豊島区のベンチャーの人達のコミュニティができるはず。
- ・ニーズを聞き続けることが必要。最初から製本された本じゃなくて、バインダーみたいなイメージで後から足せる仕組みを最初に作っておく。作った物を守ることじゃなくて書き換える事が一番大事、書き換えていくことこそが使命となる。1 年後には状況が変わりますし。今の支援はちゃんとしているんだけど、本当にかゆいところに手が届かない。
- ・箱もお金も大事だが、プラスそれをつなぐ人が特にエンターテインメントとか表現者に対しての仕事においては、ものすごく大事。

5 高橋 豊プロデューサー

【〇〇ストリートを増やす。改札を出たら始まっている感のするまちを】

- ・乙女ロードだけでは弱い。他にも〇〇ストリートをつくってはどうか。それがあ程度揃ってきたら、海外のメディアに積極的に伝えることが必要。
- ・池袋は普段行きたい場所にしたい。一時のどんちゃん騒ぎをする場所にはしたくないし、他と張り合う必要はない。
- ・オリンピックが最終目的ではなく、これをきっかけにして街をよくしていく。
- ・池袋にトキワ荘を再現したものをつくってみては？トキワ荘がここにできて観光地になれば、本当はどこだったのということになり、その方が行きたい人が増えると思う。
- ・イベントのときに、サテライト会場として、例えば空いている学校などが借りられるとよい。いろいろ展示をしたりできれば、地方からも出て来てもらえるだけのボリュームも出せる。
- ・駅を降りてすぐに始まっている感を出す。駅を降りても始まっている感がない。秋葉原は改札出たとたんに始まっている感がある。始まっている感があると一般の人でもウキウキした感じがする。案内板とか色々含めて、工夫したい。
- ・表現の場をつくるとよい。現庁舎を壊すまで空き家の状態がある程度続くのであれば、イベントを開催したり、アートのミュージアムやったり賑わいを作りだせる。

- ・小さな場所を用意して、あそこに行けばいつも何かやっている、あそこに行けば何かやることができるという場を提供してほしい。そこに、ちょっとした屋根があると良い。